

## 小学校第3学年 算数科学習指導案

### 1 単元名 おつりを少なくするには？(たし算とひき算)【特設単元】

※第3学年で「たし算とひき算」の学習が終了した以降であれば、どの学年でも可。

### 2 単元のねらい

おつりを少なくする方法について考えることができる。

### 3 指導計画(全2時間)

第一次	1時間目	おつりを少なくする方法について考える。
	2時間目	おつりを少なくする方法についてまとめる。

### 4 指導の構想

買い物をすれば、なるべく小銭を混ぜて、おつりが出ないようにする。このことは、当たり前なことではある。しかし、必要な小銭がない、あるいは面倒であることを理由にして、大きなお金(紙幣や500円玉)を出し、おつりをもらうことも多い。そんなことを繰り返していると、あっという間に財布は小銭でいっぱいになる。

だからこそ、普通は、大きなお金にプラスして、手持ちにある小銭を混ぜて支払うということを行う。例えば992円のものを買ったとすると、1002円を出すのである。そうすると、おつりは10円玉1枚ですむ。千円札を一枚出して8円をもらうより、よほど財布はかさばらない。

一体、こうした生活の知恵は、どうして私たちに身に付いたのだろうか。

自分自身を振り返ってみると、少なくともだれかに教えられたからではない。「なんとか、おつりを少なくする工夫はできないものか」と考えた末のアイディアなのである。今回は、このことを教材化する。

授業全体で、大きく二つの場面を提示する。

一つは、920円の物を購入するときに1020円を出した場面である。なぜ、そうしたのかということを考えさせ、「おつりを少なくする」ためであることを知らせる。

二つは、876円の物を購入するときに、どのように出せば「おつりを少なくする」ことにつながるのかを考えさせる。その際、必要になるのが、今手元にどのお金が何枚あるのかということである。五百円玉が1枚、百円玉が8枚、五十円玉が1枚、十円玉が2枚、五円玉と一円玉が1枚ずつあれば、全く問題にならない。

そうでないからこそ、どのようにお金を出したら「おつりを少なくする」ことになるのか考える価値があるのである。ここで、子どもは、「おつりを少なくする」工夫を考えようとする『思考力』が身に付く。

二つの場面を通して、「おつりを少なくする」ための工夫について考えさせる。一般化できるような言葉としてまとめられたなら成功である。ここで、子どもは、実際に行ってきた「おつりを少なくする」工夫を言葉としてまとめる『表現力』が身に付く。

ここでは様々な試行錯誤も予想される。当然、おつりを出すのであるから、「ひき算」という技能が二つの場面で活用されていく。

### 5 本時の指導

#### (1) 本時のねらい(1/2時間目)

購入するものの値段と、今あるお金を考えながら、おつりをなるべく少なくする方法について考え、自分なりのきまりを作ることができる。

## (2) 展開

教師の働き掛け	学習活動と予想される反応	評価と留意点
<p><b>課題①の提示</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ひろみさんの財布には、千円札が1枚と、五百円玉が1個、百円玉が3枚、十円玉が7枚あります。 920円の本を一冊買います。 ひろみさんは、1020円を出しました。 それを見ていた、ゆうさんは不思議に思いました。</p> </div> <p><b>発問</b>：ゆうさんは、なぜ不思議に思ったのでしょうか。</p> <p><b>発問</b>：ひろみさんのお金を出すことによって、どんなことがよいのですか。 (思考力を育成する)</p>	<p>1 課題①を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通なら千円札を1枚だけ出せばいいのに、どうして20円も出したのか不思議に思ったのだと思う。</li> <li>・おつりが少なくなる。 千円だけ出せば、おつりは80円。ひろみさんのように出せば百円玉1枚だけがおつりできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題にあるお金については、模型を用意し、操作できるようにしておく。</li> <li>・持っているお金では、おつりのないようにはできないことを感じさせる。</li> </ul>
<p><b>課題②の提示</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なつきさんの財布には、1000円札が1枚と、五百円玉が1個、百円玉が4枚、十円玉が5枚、一円玉が1枚あります。 876円の本を一冊買います。 どのように出すと、一番おつりが少ないのでしょうか。</p> </div> <p><b>発問</b>：どのようにお金を出すと、おつりが少なくて済みますか。 (思考力・判断力を育成する)</p> <p><b>発問</b>：おつりを少なくするためには、どんな工夫をすればよいのですか。 (表現力を育成する)</p>	<p>2 課題②を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千円を出せば、124円のおつりで、百円玉が1枚、十円玉が2枚、一円玉が4枚の合わせて7枚</li> <li>・900円を出せば、900-876で24円。十円玉が2枚、一円玉が4枚の合わせて6枚。</li> <li>・901円を出せば、901-876で、25円。十円玉が2枚、一円玉が1枚の合わせて3枚。</li> <li>・6円に5円をたせば、11円になるので、876円より少し多いお金で1円玉を出せばいい。</li> </ul> <p>3 二つの事例から、おつりを少なくする方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代金の一の位、十の位、百の位に、1から5をたして、今あるお金になるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前の課題とは違って、例えば906円が出せない状況であることを意識させ、様々な出し方を考えさせる。</li> <li>・一つ一つの状況に応じて、実際の模型で操作させ、ひき算の式をかく。</li> </ul> <p>◇様々な状況を試行錯誤し、少しでもおつりを少なくすることができる。</p> <p>◇おつりを少なくする工夫を言葉で表現できる。</p>

